

保育士を対象とした保育相談支援に関する研修実践

北 濱 雅 子

I はじめに

筆者は、ある保育所から職員研修の依頼をきっかけに、3回にわたる研修を実施した。本研究では、筆者が行った研修の実践を紹介するとともに、その有効性について検討したいと考える。

保育所職員の研修においては、野本(2014)¹⁾が、日本保育学会第67大会におけるシンポジウム「保育者が育ち合う支援体制作り—同僚性と専門性を高めるために」を報告しているように、その中で参加者同士の話し合いを中心とした実践の重要性が提言されている。また、第33回全日本私立幼稚園連合会四国地区大会第2分科会においては、その課題が「子どもと共に育つ保育者」であり、研修テーマを「同僚性を育むコミュニケーション」として研究発表が行われている(2018)²⁾。保育者にとって、専門性を高めるためにも、共通理解を持って職員全員で子どもの理解を行い、分かち合うことは大きな流れになっている。

小林(2017)³⁾は、単に知識を得るだけではなく、参加者が話し合いを通じてお互いの専門性を高めていく園内研修を実現するためには、まず様々な職員が率直に話し合えるような関係性の構築が必要であると述べ、関係性を高めるためにグループエンカウンターを活用したグループワーク研修プログラムを紹介している。

筆者自身はかねてより、保育所での研修に加わっ

た経験から、講義やアドバイスだけでなく、研修を通して所内の関係性をより高めたいこと、また、その結果として、保育者のエンパワメントにつながるような研修をしたいと考えていた。

筆者は、香川短期大学の教員として今年度まで、発達心理学、保育相談支援、子ども理解とカウンセリングなど、家族への支援、カウンセリングを基盤にした福祉、心理学の授業を主に担当しており、臨床心理学を基盤としている立場である。村上ら(2018)⁴⁾は、保育カンファレンスの実施において、構成メンバーの違いによる特徴を比較、整理している。構成メンバーにかかわらず、「保育者の省察が深まる」「保育実践の再構築が進む」「子ども理解が進む」「子ども理解が深まる」「連携が進む(園内・家庭など)」といった保育者の主体性にまつわる効果があると述べ、さらに、心理臨床家の入る保育カンファレンスには、それらに関連して「保育者のエンパワメントにつながる」効果も加わる、としている。

保育所からの、研修依頼は、筆者の担当科目を了解の上での依頼であり、当初、保育所からの所内研修の依頼事項は、子育て支援において職員が困っていることについて解決していきたいという大まかなものであった。保育所と筆者の話し合いの中で、保育士が行う保護者への支援という目的に焦点づけられ、方法としてグループワークとしてロールプレイングの方法を取り入れることに決まった。筆者が担当している保育相談支援の枠組みと関連づけることもできると考える。本研究では、小林(2017)³⁾を参考としながらも、保育士が行う保育相談支援の技術の向上を念頭に研修内容を構成した。実施の際には当初想定した内容の変更も生じた。研修の内容のみならず、保育所とのかかわりの経過も併せて紹介

令和2年1月6日受理

連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地

香川短期大学 子ども学科第Ⅲ部

TEL 0877(49)5500 FAX 0877(49)5252

Email masako@kjc.ac.jp

することにより、研修の有効性だけでなく、保育所で外部講師が研修するという点について筆者が保育所とのかかわりの中で工夫したことについても考察していきたい。

Ⅱ 研修実践の紹介

(1) 研修実施に至るまでとその後の研修の流れ

①依頼

依頼元の保育所からの電話依頼により、保育所とのかかわりが生じる。保育所内の保育士を対象に、1時間半の研修を3回依頼したいとのことであった。内容は筆者に任せたいということであったが、子育て支援における職員の困りごとに対応して欲しいということであった。筆者は受けることとし、研修前に一度保育所を訪問したいこと、そこで、依頼内容を確認したいこと、さらに実施案も提示したいということを伝え了解を得る。

②事前訪問

管理職二人に対応いただく。筆者からは打ち合わせの目的について、職場の意図を把握し、研修内容に反映させたいと伝えた。話し合いの結果、3回の

研修の全体の目標として、次の3点を考えることとした。ア) 職員が困ったことをお互いに話し合える土壌づくりを行う。イ) 保護者対応にかかる支援技術(カウンセリングも含む)を知る。ウ) 保育者のメンタルヘルスに関する知識と対応を知り考える。管理職からは、送迎時における保護者とのやりとりの対応の仕方について勉強したいという要望もあったので研修方法の中で工夫することとした。全体での活動は、グループ活動を主体とし、コミュニケーションを活発にし、話し合える土壌づくりを目指すこととした。グループのメンバー構成は、管理的な役割を持つ参加者は1つのグループにまとめ、その他は、経験年数や役割等を考慮せずに、任意にグループ分けを行うこととした。訪問を踏まえたこの時点での全体計画を表1として筆者が作成した。アンケート(巻末資料1、2参照)についても説明し、実施の了解を得た。

③第1回研修

ア) 研修のオリエンテーションとして、挨拶と全体説明を行った。この時に、表1を参加者に配布し研修の概略を示した。グループ構成については、事前に周知済みであったが、初めの座り方は全体

表1 各回の概要

	第1回	第2回	第3回
日 時	★月★日 13:30～15:00	★月★日 13:30～15:00	★月★日 13:30～15:00
目的, ねらい	話し合いの土壌づくりと情報の共有 ・皆それぞれに困っていることがあるという理解 ・どんなことに困っているかということの共有	話し合いの土壌づくりと情報の共有, 具体的な対応を考え理解する。	1回目と2回目を踏まえて、保育相談支援について考える。「保育士として、何ができるか。～送迎時の応答から考える」(仮題)
本時の目標	・各職員が、仕事をしていくうえで、困ったことを考え、それを出し合う。 ・困ったことを自分たちで分類する ・発表する	・1回目に出てきた自分たちの困りごとについて、事例研究的、ロールプレイ的に考え、自分たちの保育所ならではの対処法を発表、共有する。(グループ内でシナリオを作成することを通して行う)	・各グループが発表する。 ・発表内容をふまえた講義を聴き問題を検討する。
準備物	模造紙、付箋紙 アンケート 筆記用具	1回目の資料をまとめたもの。 筆記用具。模造紙。マジック。	

での講話形式であった。

イ) 第3回の研修目標については、第1回と第2回をふまえ検討することを伝えた。本時の内容の説明を行った。保護者対応においてどんなことに困っているかを、付箋1枚に困りごとを1つというように、それぞれの席で参加者各人が付箋に書くこととした。(約25分)

ウ) グループで集まり、配布した模造紙の上に張り付けながら、各参加者が、他のグループ構成メンバーに付箋の内容を説明していく。そして、似ている内容をまとめていく作業を行った。まとめるにあたってのやり方はKJ法(川喜多1967)⁵⁾を参考に説明したが、まとめ方はそれぞれのグループ構成員にまかせていくこととした。まとめる過程の中で、自由に討論していくこととした。(約40分)

エ) それぞれのグループの中でどのような内容の困りごとが出たのか、それをどのようにまとめていったのかを発表していった。(約20分)

オ) 講師(筆者)のまとめと助言、次回の説明を行った。(約5分) アンケートの依頼を行い、その場で提出できる場合は提出してもらった。研修の最終時点での出席者数は16人で全員からのアンケート回収をした。

④第2回研修

ア) 挨拶と前回の振り返りを行った。保護者への支援である保育相談支援について、柏女(2011)⁶⁾を参考に考え方を簡単に講義した。その後本日の内容について説明を行った。(約15分)

イ) グループになり、前回の困りごとの中から、1つテーマを選んで、送迎時にその保護者とどのようにやりとりをしていくかについて、保育者役と保護者役を決めて、架空事例のやりとりを考えることとした。出来上がったあとで、ロールプレイングができるよう具体的なやりとりのシナリオを作成し、実際にグループの中で練習することとする。練習の間に保護者の気持ちを考え、シナリオ修正が必要である場合は修正可能であることを伝えた。考えるヒントとして、子どもの年齢や性別、保護者の方の年齢等の属性をあらかじめ設定として考えておくとやりやすいと助言した。やりとりは、模造紙に記入していくこととした。(当

初は40分程度を考え、発表までを第2回の内容と想定していたが、結果的に、グループで作業進度にやや差があったもののシナリオ作成で1時間10分を使った。)

ウ) 第2回研修のまとめと次回の説明を行った。今回は、当初の説明では、グループ発表で出された問題について講義を行う予定であったが、今回作成したシナリオをもとにロールプレイングを全グループ行うことと説明した。アンケートは、この時点での参加者全員14人から回収した。

⑤第3回研修

ア) 挨拶と本日の内容を説明した。(5分)

イ) 各グループのロールプレイングの発表を行った。実際に保育者役と保護者役を決め、参加者の前で演じた。グループ毎に、講師(筆者)がそれぞれの役割の演者に対して、どのような気持ちであったかを確認し、発表してもらった。

講師は、発表された架空事例から読み取ることのできる、子ども理解と保護者理解を説明した。また、事例から想定される、発達上の課題の説明、保護者理解から考えられる送迎時を含む保護者対応について説明した。(80分)

ウ) まとめを行った。(5分) アンケートは、この時点での参加者全員14人から回収した。

(2) アンケートの結果(アンケートは巻末参考資料1, 2参照)

①アンケート回収者数は表2の通りである。(最終時点でアンケート提出者を研修参加者とした。)

②研修内容に関する質問項目の結果については表3-1から表3-3の通りである。

研修内容については、3回の研修共に全員が良かったと答えている。具体的な記述もアンケートの中

表2 アンケート回収人数

第1回	16
第2回	14
第3回	14

(単位は人)

で求めているが、それについては、表5以下で示す。

研修内容について、1回目と3回目が全員理解できたと答えている。2回目については、1人がどちらでもないと答えている。

第1回目については88%の14人が楽しかったと答え、2人がどちらでもないと答えている。2回目のロールプレイングを行うためのグループワークについては全員が楽しかったと答えている。第3回については一人を除いて楽しかったと答えている。

③自分の活動についての質問の結果は表4の通りで

ある。

自分の活動について「熱心に取り組んだ」と答えた参加者数は、第1回が2人を除く14人で、2人がどちらでもないと答えている。第2回は1人を除く13人が熱心に取り組んだと答えている。第3回は全員が熱心に取り組んだと答えている。

④研修内容に関して希望していたかどうかについて、第1回と第2回におけるアンケートで質問を行ったが、全員が本研修内容を希望していたとのことであった。

表3-1 内容についての研修回毎の感想

研修回	良かった (人)	参加者数に対する割合 (%)	どちらともいえない (人)	参加者数に対する割合 (%)	良くなかった (人)	参加者数に対する割合 (%)
第1回	16	100	0	0	0	0
第2回	14	100	0	0	0	0
第3回	14	100	0	0	0	0

表3-2 内容についての研修回毎の感想

研修回	理解できた (人)	参加者数に対する割合 (%)	どちらともいえない (人)	参加者数に対する割合 (%)	わからなかった (人)	参加者数に対する割合 (%)
第1回	16	100	0	0	0	0
第2回	13	93	1	7	0	0
第3回	14	100	0	0	0	0

表3-3 内容についての研修回毎の感想

研修回	楽しかった (人)	参加者数に対する割合 (%)	どちらともいえない (人)	参加者数に対する割合 (%)	つまらなかった (人)	参加者数に対する割合 (%)
第1回	14	88	2	13	0	0
第2回	14	100	0	0	0	0
第3回	13	93	1	7	0	0

注1) 分析対象者数は、第1回が16人、第2回が14人、第3回が14人であった。

注2) %については小数点以下1桁で四捨五入した。よって、合計して100%にならない場合もある。(表4も同様)

注3) 注1) 注2) については、表3-1、表3-2、表4についても該当する

表4 自分の活動について

研修回	熱心に取り組めた (人)	参加者数に対する割合 (%)	どちらともいえない (人)	参加者数に対する割合 (%)	あまり熱心でなかった (人)	参加者数に対する割合 (%)
第1回	14	88	2	13	0	0
第2回	13	93	1	7	0	0
第3回	14	100	0	0	0	0

- ⑤ 3回の研修を通して自分の困っていることを話すことができたかどうか、これからの仕事に得るものがあったかについて質問した。その結果は表5-1、表5-2のとおりである。
- 3回の研修を通して、参加者は、「話せた」「まあ

まあ話せた」と答えた人は、合わせて1人を除く13人であった。また、「仕事に得るものがあった」と答えた人は、「あった」「ある程度あった」と答えた人は、合わせて14人であった。

表5-1 困っていたことを話せましたか？ 3回を通した感想（第3回研修時のみに質問）

話せた（人）	まあまあ話せた（人）	どちらでもない（人）	あまり話せなかった（人）	話せなかった（人）
6	7	1	0	0

表5-2 これからの仕事において得るものはありましたか？ 3回を通した感想（第3回研修時のみに質問）

あった（人）	ある程度あった（人）	どちらでもない（人）	あまりなかった（人）	なかった（人）
13	1	0	0	0

注1）第3回の分析対象者は14人である。

表6-1 「内容について良かったかどうか」に関する自由記述

他の保育者の悩みや困りごとがゆっくり聞き合えて良かった。すっきりした。（9人）	
聴いて、話すこともできた。（3人）	
他の保育者と思いを共有、共感することができた。（4人）	
その他（3人）	自分では思いつかない考えをアドバイスしてもらうことができた。
	自分の保育を振り返ることができた。
	自分が今身近に感じたり思ったりしていることを話し合い、講師に具体的に取り上げて講義して貰い良かった。

注1）回答者は16人（重複回答あり）

表6-2 「理解できたかどうか」についての自由記述

他の保育者の悩みに共感することができ、理解できた。心強く感じた。（5人）	
グループ分けと付箋によって目に見える形での理解が進んだ。（4人）	
自分の悩みを話し聴いてもらうことで、保護者への肯定的理解が進んだ。（3人）	
その他（2人）	具体的に（講師が）説明してくれて良かった。
	コミュニケーションの工夫や初任者の先生へのかかわり方がよくわかった。

注1）回答者は14人

表6-3 「楽しかったかどうか」についての自由記述

参加型、少人数によるグループ分けによる進め方を評価したもの。（5人）	
普段機会がないので、たくさん話ができて楽しく参考になった。共有できて楽しかった。（3人）	
言いたいことが言えたので、ちょっとスッキリした。ざっくばらんに言えた。（2人）	
その他（3人）	自分が気付いていなかった問題に気づき、はっとしたから。
	勉強になった（どちらともいえないの回答に対して）。
	自分の思いや考えを紙に書いて具体化できたことが良かった。

注1）回答者は10人（重複回答あり）

⑥第1回から第3回まで、各質問において自由記述を求めた。その内容を記載する。

ア) 第1回「内容について良かったかどうか」に関する自由記述については表6-1に、「内容について理解できたかどうか」に関する自由記述については表6-2、「内容について楽しかったかどうか」に関する自由記述については表6-3に示す。いずれも、内容について同じものを、筆者がまとめたものを示している。

イ) 第2回「内容について良かったかどうか」に関する自由記述については表7-1に、「内容について理解できたかどうか」に関する自由記述については表7-2に、「内容について楽しかったかどうか」に関する自由記述については表7-

3に示す。いずれも、内容について同じものを、筆者がまとめたものを示している。

ウ) 第3回「内容について良かったかどうか」に関する自由記述については表8-1に、「内容について理解できたかどうか」に関する自由記述については表8-2に、「内容について楽しかったかどうか」に関する自由記述については表8-3に示す。いずれも、内容について同じものを、筆者がまとめたものを示している。

⑦3回を通した自由記述については表9に示した。

表7-1 「内容について良かったかどうか」に関する自由記述

保護者の立場も含め、色々な立場で考えることができた。(2人)
言葉にすることで見直すことができ、改めて保護者対応を考えるきっかけとなった。(2人)
他の先生と話し合うことでいろいろな意見を聞くことができた。(3人)
ロールプレイはあまり経験がなかったので、戸惑ったが、自分を振り返り勉強になった。(2人)
テーマを決めてやり取りを考えることで、自分の話し方や伝え方を振り返ることができた。
自分の事例についてみんなで考えたので良かった。
普段は何気なく話をしたり聞いたりしているが、色々なことを意識しながらすることが大事だと思った。
事例によって会話を考えたので、どう話を持っていけばよいか考えられた。

表7-2 「理解できたかどうか」についての自由記述

具体的な事例をとりあげながら話し合ったのでわかりやすかった。
自分の言葉はすらすら出るが、保護者の気持ちや立場がもう少し理解できるようになると良い。
答えが欲しいです(どちらともいえないと回答した者)。
保護者対応の大変さに改めて気づいた。
話を聴くとき話すときに意識した点を考えることができた。
講師の説明がわかりやすく理解できた。
自分には実際には体験していない事例だったが、話し合うことで理解が深まり、今後自分のためになると感じた。
相談、会話が何の目的で何のためにしているのかをよく考えるという大切さを改めて感じた。
現在の保護者対応に今日のワークを生かしたい。

表7-3 「楽しかったかどうか」についての自由記述

グループで話し合っって色々な意見や場面を開けて楽しく良かった。(9人)
他のクラスの先生たちと事例をゆっくり話合えてよかった。
話すことで、思い悩むことのストレス発散になった。

表8－1 「内容について良かったかどうか」に関する自由記述

保育士と母との会話のやりとりを直接体験し、見ることで、母の立場、母の悩み、伝わり方を客観的に感じることができた。(2人)
具体的な方法や応答を知ったり、見ながら自分ならと考えることができた。(2人)
今後の保育や保護者支援に活かせることが多く勉強になった。(2人)
自分の立場や母親の気持ちになって考え振り返りをしながら保護者の支援についてポイントやつぼを学ぶことができた。(2人)
実際の場面を想像しながら見られた。また演じることができた。
ロールプレイにしたことで、とても分かりやすかった。

表8－2 「理解できたかどうか」についての自由記述

とても参考になった。
ロールプレイの中での保護者の気持ち等、講師からのポイントや具体的なアドバイスがわかりやすく、より理解できた。(3人)
自分もそうだと思うところ、振り返りができた。
理解できるが難しいなと思う。
保護者支援の仕方について改めて考えさせられるところがあった。

表8－3 「楽しかったかどうか」についての自由記述

自分だったらどう答えたか？等身近な日常振り返りながら取り組むことができた。(4人)
先生がたのやりとりがおもしろい。
聴くだけでなく発言もでき、考えることができたので楽しかった。
演じるのが苦手(どちらともいえないへの説明)。
皆で楽しくロールプレイができた。

表9 3回の研修を通した自由記述

お母さんに寄り添うことの大事さを感じた。
普段の保護者との関係を大切に築くことが大切であること、そこを基盤とするために、一人一人の保護者の特徴を捉えて伝えたい。ポイントを絞って応えていきたいと思います。
主体的に学べた研修であった。それぞれの職員の考え、ロールプレイの中での視点のあて方などから、学ぶことがたくさんあった。ありがとうございました。
短時間での保護者とのかわり、やり取りの言葉の中から、ヒントやキーワードになる一言がどこにあるのかを見極めるのがまだ少し難しい。夜になってから「ああいえばよかった」と思うことがよくある。これは積み重ねなのだろうか・・・。
ロールプレイングは初めてしたがとても勉強になった。実際に再現してみることで、内容や状態がよくわかるし、またしたいし、とても勉強になった。機会をいただいてありがとうございました。
子どもの気になっていることなど、保護者に伝えてみようと思った。
保護者との関わり、対応が難しい所があったが、母親を認めることも大切だということも知り、会話の中に取り入れていこうと思った。
講師のアドバイスや話しがとても勉強になった。これからの仕事に活かしていきたい、ありがとうございました。
先生方と困っていることを共有できたり、それについて話をすることができたことが良かった。保護者支援についても、保護者の願だけでなく、保護者の思いも受け止めながら行っていきたい。

Ⅲ 考察

「はじめに」で述べたように、本研修の有効性と、筆者が研修実践で行った工夫について考察する。

(1) 本研修の有効性について

第1回から第3回の研修を行ったが、それぞれについて参加者全員が、内容は良かったと答えた。また、内容についての理解においても、第2回の一人を除いて理解できたと答えている。この第2回の「どちらでもない」と答えた一人については、理解できなかったということではなく、「答えが欲しい」という自由記述が記載されていたものである。また「楽しかったかどうか」については、第1回の2人、第3回の1人除いて、「楽しかった」と答えている。以上より、受講者にとって研修は有効なものであったと考えることができる。これらの質問に関する自由記述をみてみると、参加者の考えを具体的に推察することができる。

まず第1回の自由記述においては、自分の困りごとを付箋に書くことで視覚化し、さらに、グループワークを通して共有し合った。このことにより保護者への対応において、自分の悩みを明確にし、迷ったり悩んだりしているのは自分だけではなく、皆も迷いながら対応しているのだということを理解し、安心できたということが良かったと感じていることがわかる。話を聴き合えたという感覚が、相互理解の過程を進め、とても満足感が得られたことを自由記述の内容から推察することができる。第1回の研修の目的が、話し合いの土壌づくりと情報の共有であったが、それらは、研修によって達成できたと考えてよいのではないかと考える。第1回のグループワークでお互いのコミュニケーションが十分にできたという満足感は、お互いへの安心感や信頼感につながったようだ。まず個人での付箋記載による意識化と可視化、話し合い、続いてのグループでのシナリオの検討、ロールプレイングという手順は、ゆっくりとコミュニケーションを進めるための、有効な方法であったと考える。自由記述からも、こうした方法は良好な評価につながっている。第2回においては、ロールプレイングのシナリオ作りを行った。ここではシナリオ作りのグループワークを通して、具体

的な送迎時の対応や子ども理解、保護者の立場に話題が進むことを想定していた。が、自由記述をみると、第1回でも出されていた「お互いに話ができてよかった」ということに加え、保護者の立場を理解しようとする保育者としての視点の広がりを感じる感想も多く出されてきた。またシナリオの応答を考えることにより、自分を振り返ることができたといった感想も出てきた。ロールプレイングというグループワークのやりかたは種々工夫されているが、その場で演じる前にシナリオを作成するという段階を踏むことにより、保育者の立場だけでなく、保護者への理解を深めることができていたことがわかる。さらに第3回においては、実際に参加者の前で演じ、参加者全員から意見をもらうことを行った。ここでは、講師役の筆者もアドバイスをを行っている。演じた参加者にとっては、紙面上で考えるだけでなく、演じることによって体験的に感情を理解することができた。観察していた参加者にとっては、保育士と母親のコミュニケーションを客観的に双方の立場から感じることもできたようだ。また、講師からの助言についても感想が多かった。説明の言葉がわかりやすかったと書いてあるものもあり、心理学を基盤とする筆者にとって、他領域の専門家に話す際の工夫の必要性を強く感じた。

全体を通しての自由記述については、研修そのものの意義をきちんと受け止め、保護者に寄り添いたいとしているものもあれば、今後、子どものことを伝えてみよう、今後についての意欲が語られているものもあった。主体的に学べたと書いているものもあり、研修の方法を工夫していくことは大事であると改めて考えることができた。

3回の研修を通して、「今後の仕事に得るものがあった」「ある程度あった」と答えている参加者が全員であり、有意義な研修と捉えていると考えられる。

以上より、本研修の実践は、受講した参加者にとって意義があり、今後の保護者支援をしていくにあたって、技術の習得だけでなく、今後の仕事を行っていく上でのエンパワメントもできたのではないかと考えている。

(2) 筆者が行った工夫等について

依頼のあった保育所のニーズを丁寧に把握した上で研修の目的や方法を計画していくことが大切であると改めて感じた。一般的に心理臨床の立場に立つ講師は、保育所にとっては外部者であるため、当該施設の様子が不明であることがほとんどである。研修は3回であったが、筆者は事前に訪問することにより保育所のニーズを確認し、そのうえで参加型の研修内容を提案し事前準備を行った。直接訪問することが難しい場合であっても、できるだけ事前情報収集を行うことによって、当該施設の雰囲気等を知ることができれば、研修を実施する際に役にたつことが実感できた。今後専門性の異なる施設での教育活動においては、一層考慮すべきことであろう。

当初訪問時希望にあった、保育者のメンタルヘルスに関しては、実施できなかった。グループワークを行う際には十分な時間が必要であることを改めて実感した。

引用文献

- 1) 野本茂夫, 2014, 日本保育学会保育臨床相談研修企画委員会企画シンポジウム「保育者が育ち合う支援体制作り—同僚性と専門性を高めるために—」, 保育学研究, 52 (3), 125-126
- 2) 学校法人尽誠学園 香川短期大学附属幼稚園, 2018, ～同僚性を育むコミュニケーション～クラス便りの見通しを通して同僚性を育む, 第33回全日本私立幼稚園連合会 四国地区大会(香川大会)資料
- 3) 小林真, 2017, 保育園職員の関係性を構築するためのグループワーク, 富山大学人間発達科学部紀要, 12, 53-60
- 4) 村上葉月・青木紀久代, 2018, 心理臨床家が行う保育カンファレンスの特徴: 構成メンバーの違いに着目して, お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 20, 45-55
- 5) 川喜多二郎, 1967, 発想法, 中央公論社
- 6) 柏女霊峰, 2011, 第1章 保育相談支援の意義と基本的視点, 柏女霊峰・橋本真紀編著, 新・プリマーズ/保育 保育相談支援, ミネルヴァ書房, p5

参考資料 1

今回の研修について、アンケートお願いいたします。該当する箇所について○で囲み、さらに、具体的に書ける方は具体的に記載してください。

1 内容について

- ① (良かった。 どちらともいえない。 良くなかった。)

☞上の選択について簡単でいいので、具体的に記述してください。

- ② (理解できた。 どちらともいえない。 わからなかった。)

☞上の選択について簡単でいいので、具体的に記述してください。

- ③ (楽しかった。 どちらともいえない。 つまらなかった。)

☞上の選択について簡単でいいので、具体的に記述してください。

- ④ (どちらかというと自分が希望していた内容 違う内容を希望していた)

☞上の選択について簡単でいいので、具体的に記述してください。

2 自分の活動について

- ⑤ (熱心に取り組めた。 どちらともいえない。 あまり熱心でなかった。)

☞上の選択について簡単でいいので、具体的に記述してください。

3 自由記述

参考資料 2

○今日の研修（各グループによるロールプレイとアドバイス）について

- ① (良かった。 どちらともいえない。 良くなかった。)

☞上の選択肢について簡単でいいので、具体的に記述して下さい。

- ② (理解できた。 どちらともいえない。 わからなかった)

☞上の選択肢について簡単でいいので、具体的に記述して下さい。

- ③ (楽しかった。 どちらともいえない。 つまらなかった。

☞上の選択肢について簡単でいいので、具体的に記述して下さい。

- ④ 自分の活動について

(熱心に取り組めた。 どちらともいえない。 あまり熱心でなかった。)

☞上の選択肢について簡単でいいので、具体的に記述して下さい。

○3回を通してお聞きます。

- ① 今回のテーマである、困っていたことを話しましたか？

(話せた。 まあまあ話せた。 どちらでもない。 あまり話せなかった。 話せなかった)

- ② これからの仕事に得るものはありましたか？

(あった。 ある程度あった。 どちらともいえない。 あまりなかった。 なかった。)

○自由記述